

適期収穫と斑点米カメムシ対策で、収量・品質向上に努めましょう

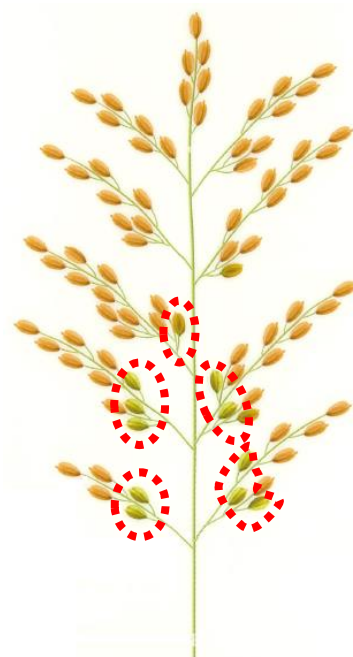
《はじめに》

今年は出穂期がおおむね平年並みで推移しています。ただし、気象庁の1か月予報では、向こう 1 か月(7月25日～8月24日)の気温が高い見込みです。出穂期以降の登熟期間も高温条件で推移すると登熟が早く進み、刈り遅れると玄米の品質が低下します。

また、「令和8年度病害虫発生予報第4号(7月15 日付)」では、イネカメムシを含む斑点米カメムシの予想発生量が「やや多」と発表されました。今後、遅植えのほ場の出穂期に飛来する斑点米カメムシにも注意し、適期に防除しましょう。

高温時は刈り遅れによる品質低下に特に注意！

- 高温条件では登熟が早く進むため、こまめにほ場を確認し、適期収穫に努めましょう。
- 刈り遅れると茶米や胴割れ粒が発生し、品質低下につながります。
- 落水は収穫の一週間前とし、収穫直前まで稲体に水分を供給して籾の充実を促します。
- 穂全体の籾が全て黄化した完熟籾になると刈り遅れです。出穂期から刈取りまでの標準的な日数(表1)を目安とし、ほ場で収穫適期を確認しましょう。なお、収穫適期は「帯緑色籾歩合 15%」と目安とします。



 内が帯緑色粉

(平均的な株の長い穂を見る。
穂の下部の枝梗に帯緑色粉が
残っている状態が収穫適期。)

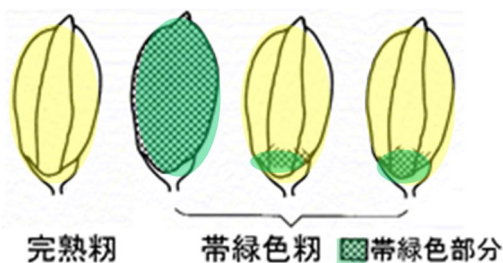
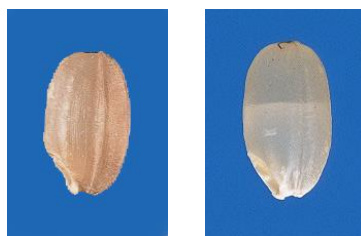


図1 帯緑色粉の見分け方



茶米(被害粒) 胴割粒(被害粒)

(農林水産省ホームページから)

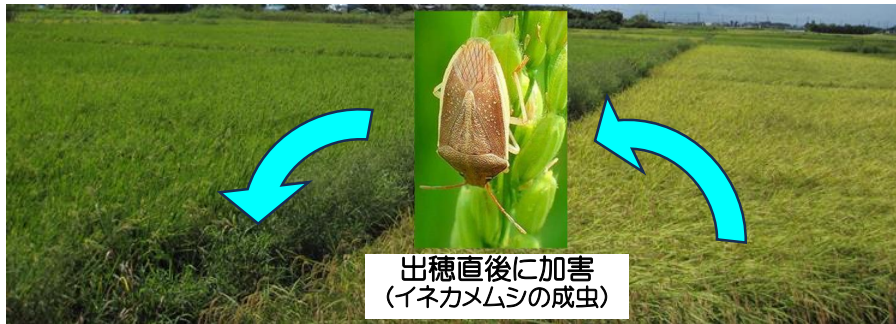
- 水稻生育予測システム「でるた」は、出穂期を予測し、出穂期から収穫まで品種ごとの標準的な日数(表1)を加算するため、登熟期間の気温は加味していません。出穂期後に高温で推移した場合、実際の収穫適期は「でるた」の予測値より3～5日程度は早まるため、注意して下さい。

表1 出穂期から刈取りまでの標準的な日数

品種	出穂後日数
ふさおとめ	33日
ふさこがね	37日
コシヒカリ	38日
粒すけ	38日

[illegible]

遅植えのほ場や飼料用イネ作付ほ場における斑点米カメムシ防除 －出穂期が遅いほ場への斑点米カメムシの集中に特に注意！－



- 「令和 8 年度病害虫発生予報第4号(7 月 15 日付)」では、イネカメムシを含む斑点米カメムシの予想発生量が「やや多」となっているので注意が必要です。
- 今後、出穂期を迎える遅植えのほ場や、飼料用イネ(飼料用米、WCS用イネ)作付ほ場に集中することが懸念されるため、遅植えほ場の出穂期(表2)を目安に、斑点米カメムシを防除し品質向上に努めましょう。
- 近年、発生が多いイネカメムシは出穂直後の稲に飛来し、加害・産卵し、ふ化した幼虫も加害するため、出穂期前の粒剤散布又は出穂期のフロアブル剤散布が効果的です。
さらに、他の斑点米カメムシ対策としては、穂揃期から乳熟期の追加防除も必要です。
- 遅植えのほ場で斑点米カメムシを防除する際は、4月植えのほ場の収穫時期と重なる可能性があるため、隣接ほ場への飛散に注意して薬剤散布しましょう。
飼料用イネ(飼料用米、WCS用イネ)は、使用可能な薬剤を確認して防除しましょう。



「令和8年度 病害虫発生予報 第4号(7月15日付)」は、こちらからご覧下さい。



イネカメムシに対する対策は、「令和8年度 水稻の高温対策研修会」のYouTube をご覧下さい。(発表は、1時間12分 06 秒から始まります)

表2 遅植えほ場の出穂期の目安(県中央部の場合)

品種/移植日	5月10日植	5月20日植	5月31日植
ふさこがね	7月21日	7月28日	8月 4日
コシヒカリ	7月29日	8月 4日	8月 11日
粒 す け	7月29日	8月 4日	8月 11日
(飼)アキヒカリ	7月19日	7月25日	8月 2日
(飼)夢あおば	7月27日	8月 3日	8月10日
(W)たちあやか	8月15日～25 日頃		
(W)リーフスター	8月21日～31日頃		

注1) 水稻生育予測システム「でるた」による8月6日現在の予測値。

注2) WCS 用イネ品種「たちあやか」、「リーフスター」は飼料用イネの栽培技術(改訂版、平成 30 年 3 月)を基に推定。

早めの秋耕で稲わらのすき込みを

台風の大雨による稲わらの吹き寄せや、来年の移植後のガスわき(還元障害)を防ぐために、早めに秋耕を行い、稲わらをすき込みましょう。
なお、ガスわき防止のために耕うんは深すぎず、15cm程度とします。

